



ROCK PAINT

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます

弱溶剤2液型低汚染ラジカル制御

フッ素樹脂塗料

サンフロニ[®]UV



ロックペイント 株式会社

弱溶剤2液型低汚染ラジカル制御

フッ素樹脂塗料

サンフロン[®]UV

環境にやさしくメンテナンスコスト低減へ

サンフロン[®]UVは、強靱で強い結合エネルギー(C-F)を持つフッ素樹脂を採用し、高性能な塗料を実現しました。

超高耐候性

太陽光に含まれる紫外線(UV)や風雨、錆などの劣化因子から塗装面を強力にブロックします。

低汚染性

雨水が塗膜になじみやすい親水性塗膜となり、塗膜表面の汚れを雨水で流すセルフクリーニング技術を採用しました。

環境低負荷

塗料用シンナー希釈タイプのため臭気がマイルドで、下地(旧塗膜)の適用が幅広く、鉛・クロム化合物をはじめ、ホルムアルデヒドを配合していません。

防藻・防カビ性

薬剤を包剤化することで風雨に溶出しないため、長期間藻やカビの発生を抑えます。

作業性

速乾性で作業性にすぐれます。

用 途

- ・戸建住宅、集合住宅、商業施設など壁面上塗り
- ・建築構造物、建築用パネル、各種金属部材など
- ・各種旧塗膜など塗り替え用上塗り

被塗物素材

- ・コンクリート、モルタル、サイディングボード、ALC、スレート板など
- ・鉄部、亜鉛めっき鋼板、アルミニウム、ステンレスなどの金属面

注) 付着適性のない部材や旧塗膜の状態により付着が十分得られない場合がありますので事前にご確認ください。

金属部に塗装する場合は必ず下塗りに適性のあるプライマーを塗装してください。

アクリル板、軟質塩ビには塗装できません。

製品構成・配合比・可使時間

主 剤：081-9020 サンフロンUV 調色品 13kg、2.6kg
この他、ハイホワイトなど原色10色(13kgのみ)があります。

硬化剤：081-2340 サンフロンUV 低汚染硬化剤 2kg、0.4kg
081-2320 サンフロンUV 弾性硬化剤 2kg、0.4kg

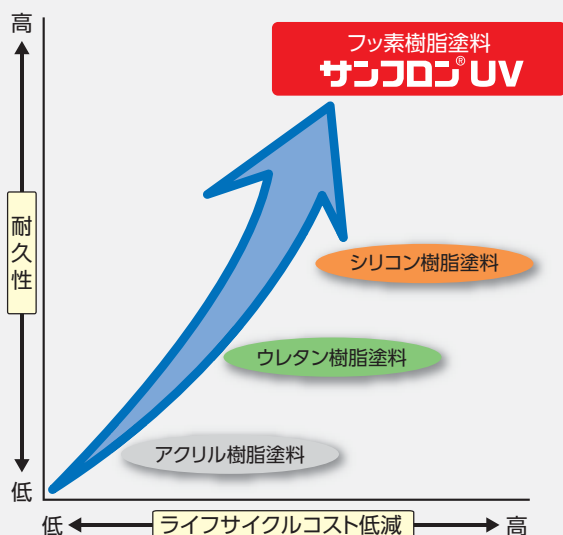
配合比(重量比)主剤：硬化剤=6.5：1

可使時間(ポットライフ)：12時間(10℃)、5時間(23℃)、4時間(30℃)

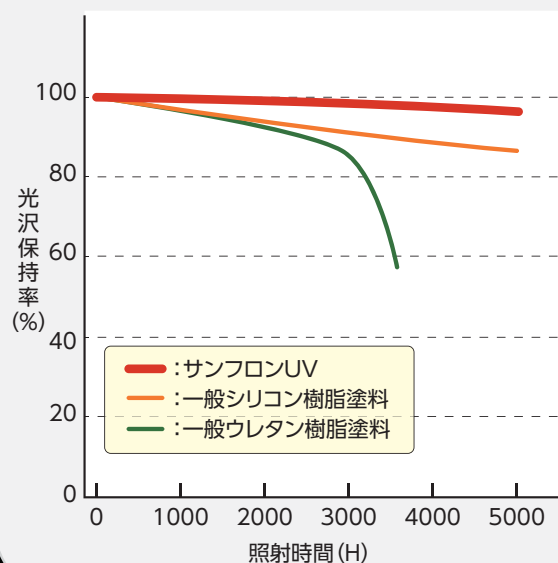
超高耐候性

弱溶剤可溶タイプの高耐候性フッ素樹脂を採用しているため、耐紫外線性、耐酸性雨性、耐アルカリ性をはじめ、海岸地域や工業地帯などの厳しい環境においても、非常にすぐれた耐久性を発揮します。また、特殊コーティングチタン(ホワイト)顔料及びラジカル吸着安定剤(HALS)によるラジカルコントロール技術により、従来型のフッ素樹脂塗料に比べ耐候性がすぐれています。

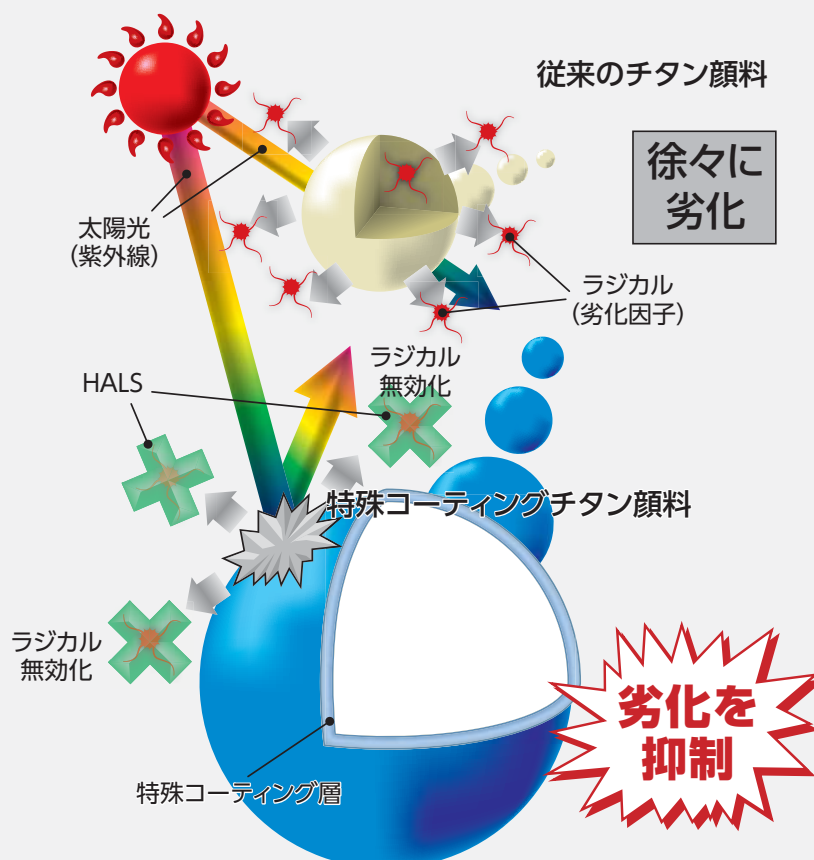
超高耐候性へ進化



促進耐候性 (XWOM)



ラジカル コントロール メカニズム



低汚染性

建築物の壁面に見られる筋状の汚れは、美観を著しく損なっています。この汚れは壁面上部のやや平らな部分にゴミやほこりが堆積することで、雨天時に汚れた水となり、壁面を筋状に流れて残ります。都市部の汚れ物質は親油性であるため、塗膜表面を親水性にすることで、雨水が塗膜を全体的に流れ落ちるような挙動となります。また、汚れ物質も塗膜になじみにくいため、流れ落ちる水により浮き上がりながら落ちてゆきます。サンフロンUVは従来以上の親水性を示す塗膜を形成するため、すぐれた低汚染性を発揮し、塗装直後の美しさを長期にわたり維持します。

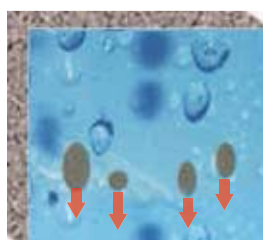
塗膜表面状態の違いによる水の濡れ性



塗膜表面における、低汚染性のメカニズム



従来の塗膜は水滴をはじきやすく、ゴミなどが付着すると流れにくくなり汚染跡が残る。



親水塗膜は水滴の接触面が多く、雨などでゴミの内側に入り込み、水とともに流し去る。

雨水で汚れを流し落とす「セルフクリーニング機能」

屋外暴露試験（雨筋汚染性・屋外タンク1.5年後）



サンフロン® UV



他社フッ素塗料



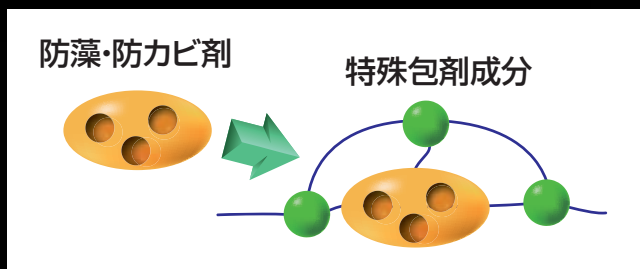
汎用塗料

環境低負荷

塗料用シンナー（ターペン）で希釈でき、弱溶剤系の溶剤で構成されているため、臭気がマイルドで、あらゆる用途に塗装できます。また1回の塗り替え改修で塗り替え間隔を大幅に延ばすことができるため、メンテナンスコストの低減が図れます。その上、鉛・クロム化合物をはじめ、ホルムアルデヒドを配合していません。

防藻・防カビ性

水に溶けない強力な防藻・防カビ剤を採用しました。また、特殊成分が薬剤を包剤（カプセル）化することで風雨により流出しないため、長期間持続性を発揮します。



● 性能表（社内規格にて実施）〔サンフロンUV ホワイト〕

試験項目		品質	結果
容器の中の状態		主剤、硬化剤ともにかき混ぜたとき、堅い塊がなく一様になる。	合格
低温安定性		塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。	合格
初期乾燥によるひび割れ抵抗性		ひび割れがないこと。	合格
表面乾燥性	23℃	8時間以内で表面乾燥する。	合格
	5℃	16時間以内で表面乾燥する。	合格
塗膜の外観		正常である。	合格
ポットライフ(23℃)		5時間で使用できるものとする。	合格
隠ぺい率 %	白および淡彩	90以上	96
鏡面光沢度		70以上	82
耐衝撃性		おもりを落下したとき、割れ及びはがれが生じない。	合格
付着性(クロスカット法)		分類1又は分類0である。	合格
付着強さ N/mm ²	標準状態	0.7以上	合格(1.0)
	浸水後	0.5以上	合格(0.9)
温冷繰返し		試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。	合格
透水性 B法 ml		0.5以下	合格(0.1)
ひび割れ充てん性		基板の溝の部分に、塗膜のひび割れ及び穴がないこと。	合格
可とう性		ひび割れがないこと。	合格
重ね塗り適合性		重ね塗りに支障がない。	合格
耐アルカリ性		飽和水酸化カルシウム水溶液に168時間浸せきしたとき、異常がない。	合格
耐酸性		0.5%硫酸に168時間接したとき、異常がない。	合格
耐湿潤冷熱繰返し性		湿潤冷熱繰返しに耐える。	合格
耐候性 A法		キセノンランプ300時間照射した後、ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。	合格
耐候性 B法（耐候形1種）		キセノンランプ照射時間2500時間で、塗膜にひび割れ、はがれ及び膨れがなく、光沢保持率が80%以上で、変色の程度がグレースケール3号以上であり、白亜化の等級が1以下であること。	合格
屋外暴露耐候性		屋外暴露24ヶ月で光沢保持率が60%以上で、試料の色差が見本品と比較して大きくなく、白亜化の等級が1又は0である。	合格

※上記試験の結果は特定の場合における実測値または結果であり、その性能を保証するものではありません。

標準塗装仕様

1. コンクリート、モルタルなど可とう形改修塗材Eを使用した塗り替え

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分など皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下塗り	032-2106 ビニロックエラストックフィラーⅢ ^{注1)} (可とう形改修塗材E)	水	ローラー : 5~10 エアレス : 5~10	1	0.3~0.5	8時間以上
			砂骨ローラー: 1~ 5		0.8~1.5	
上塗り ^{注2)}	081ライン サンフロンUV ^{注3)} 配合比(重量)主剤:硬化剤=6.5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 5~15 エアレス :10~20	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内 ^{注4)}

2. コンクリート、モルタル、サイディングボードなどシーラーを使用した塗り替え

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下塗り ^{注5)}	033ライン ハイパーシーラーエボ ^{注6)} 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 0 エアレス : 0 (通常不要)	1	0.08~0.13	4時間以上 7日以内 ^{注4)}
上塗り ^{注2)}	081ライン サンフロンUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=6.5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 5~15 エアレス :10~20	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内 ^{注4)}

3. 鉄部、非鉄金属部の塗り替え

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具で、浮き塗膜、さびなどは電動工具、手工具で削りかすとともに完全に除去する。チョーキングした面、汚れ、じんあいなどはサンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下塗り ^{注7)}	061ライン 2液型サビカット 配合比(重量)主剤:硬化剤=9:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.13~0.15	4時間以上 7日以内 ^{注4)}
上塗り ^{注2)}	081ライン サンフロンUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=6.5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 5~15 エアレス :10~20	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内 ^{注4)}

4. コンクリート、モルタル面などの平滑仕上げ(新設)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
素地調整	エフロレッセンス、レイタンス、ゴミ、汚れなど付着物を完全に除去し、乾いた清浄な面とする。(含水率10%以下、pH9.5以下)					
下塗り ^{注5)}	033ライン ハイパーシーラーエボ ^{注6)} 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 0 エアレス : 0 (通常不要)	1	0.08~0.13	4時間以上 7日以内 ^{注4)}
上塗り ^{注2)}	081ライン サンフロンUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=6.5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 5~15 エアレス :10~20	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内 ^{注4)}

5. 鉄部、非鉄金属部の平滑仕上げ(新設)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
素地調整	電動工具、手工具を併用し、黒皮、赤さび、白さびなどを念入りに除去する。日本道路協会素地調整程度「2種ケレン」、又はSIS St 3程度。じんあい、水分、油分は完全に取り除く。					
下塗り ^{注7)}	061ライン 2液型サビカット 配合比(重量)主剤:硬化剤=9:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.13~0.15	4時間以上 7日以内 ^{注4)}
上塗り ^{注2)}	081ライン サンフロンUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=6.5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー: 5~15 エアレス :10~20	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内 ^{注4)}

注1) 塗装用具はローラー、エアレス、砂骨ローラーの他にリジガン、タイルガンも使用できます。

注2) 上塗りのサンフロンUVをつや調整品(7分つや~3分つや)で仕上げる場合、硬化剤配合後は念入りに攪拌してください。また1回目の上塗りはつや有りを塗装してください。

注3) 上塗りを弾性で仕上げる場合、硬化剤は081-2320弾性硬化剤を使用してください。

注4) 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。

注5) 吸い込みの著しい部材については標準塗付量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。

注6) ハイパーシーラーエボには透明とホワイトがあります。下塗りは他にユメロックシーラー(透明・ホワイト)、エボシーラーマルチ、ハイパーシーラーアクア(透明)、ロックカチオンシーラーマルチⅢ(透明)、ロックカチオンシーラーマルチ ホワイト、ロックSBフィラーがあります。また、光触媒処理や無機系コーティングを施したサイディングボードにはハイパーシーラーエボをご使用ください。

注7) 金属部の塗装には変性エポキシ系のサビ止め「2液型サビカット」、「ロックエポキシハイプライマー(2液型)」、「ハイプライマーアクア(2液型)」、「サビカット(1液型)」を下塗りに使用してください。

※仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。

施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上での塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
- 作業能率の低下および塗りムラの原因になるため、スプレーノズルの先端は時々洗浄してください。
- 希釈には必ず塗料用シンナーを使用してください。他種のシンナーを使用すると塗料中の樹脂が破壊されて使用できなくなります。また必要以上に希釈するとたれや色分かれの原因になります。
- つやの調整品は、被塗物の形状、状態、塗装膜厚や塗色などにより、実際のつやと少し違って見える場合があります。あらかじめ試し塗りを実施し確認してください。また塗り継ぎや補修の際につやむらが出やすいため、面を切って通しで塗装してください。
- 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がりがり外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- 硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使時間内に使い切ってください。
- 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。上塗りとの付着性が低下します。
- 塗料液と硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系の溶剤の混入は絶対に避けてください。
- 硬化剤はイソシアネート化合物を含んでおり、スプレーダストを吸引すると鼻、のど、気管支などに障害を起こすおそれがありますので、換気を良くし、適切なマスクを着用して作業を行ってください。過去にアレルギー症状を経験している人は取扱わないでください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装を避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマーS」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離・はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマーS」は塗装しないでください。
- エマルジョンパテの外部での使用は避けてください。
- 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗装面の取り扱い等で可塑性が多く含まれる建材（塩ビ鋼板、ミネート鋼板、プラスチック、ゴムパッキン、塩ビクロスなど）への直接の塗装は塗膜が軟化することがあり避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など）を使用した高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 笠木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 比較的緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、ユメロックシーラー、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアクアを下塗りとして使用してください。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ビスの増す打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えを行ってください。
- フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアクアを下塗りに使用してください。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 屋外セメント系素地に段差・巣穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。
- ビニロックエラストックフィラーⅢを砂骨ローラーで塗装する場合には、最初に配り塗りを行い、その後ならし塗りをし、塗り継ぎにむらが生じないようにしてください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- サビについては完全に除去後、削りカス（サビ、鉄くず）を完全に除去してください。サビの発生の原因となります。
- シーラー類や各種上塗り塗料には防錆性がありませんので、金属製の部分が錆びている場合、錆などを除去、ケレンし、適性のあるサビ止め塗料を下塗り後、上塗り塗装を実施してください。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、適性のあるサビ止め塗料で補修塗装を行ってから下塗り塗装してください。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 塗色が濃色の場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがありますので注意してください。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りすることをお奨めします。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。（気温23℃、湿度65%の場合）
- 旧塗膜が弾性系の塗膜（弾性リシン、弾性スタッコ）やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 旧塗膜は弾性型塗料でビニロックエラストックフィラーⅢを使用して塗替えを行う場合、後の工程で吹付タイル（硬質タイル）は使用しないでください。クラックが生じる場合がありますので弾性系の塗材を使用してください。
- 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- 塗り重ね可能時間（乾燥時間）は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されている素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- この塗料はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆タイプです。F☆☆☆☆以外の材料（被塗物、素地を含む）を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくなることがありますので注意してください。
- 上塗りに鮮やかなエロ系、レッド系、ブルー系、グリーン系の塗色で仕上げる場合、塗膜の隠ぺい性が弱い傾向にあるため、先に隠蔽性のよい共色（近似色）で下塗りした後、上塗り塗装してください。
- 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 防藻・防カビ効果は繁殖を抑制するため、既に発生している被塗面には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート（SDS）をよく読み、注意事項を厳守してください。

安全衛生上及び取扱上の注意

〔製品の危険・有害性〕

- 引火性の液体である。
- 溶剤蒸気を吸入すると有機溶剤中毒になるおそれがある。
- 目、皮膚、粘膜などに対し刺激性がある。

〔救急処置〕

- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

〔取扱注意事項〕

- 取扱は引火源のないところで行い、特に静電気が発生するような衣服の着用や、取扱は避けてください。
- 取扱作業所には、局所排気装置を設け、塗装時及び乾燥時には十分換気を行ってください。
- 溶剤蒸気やスプレードストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。
- 取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護めがね、保護手袋（耐溶剤性）、長袖作業着などを着用してください。
- 取扱後は手洗い及びうがいを十分に行い、作業着などに付着した汚れをよく落としてください。
- よくふたをして直射日光を避け 5℃以上 40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから廃棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

〔施工後の安全性について〕

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの際は、施主に対して安全性に十分注意を払うようにご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立て看板を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事のないようにご配慮願います。

※安全データシート（SDS）をよく読んで取り扱ってください。

ロックペイント 株式会社

東京営業部	〒136-0076	東京都江東区南砂2丁目37番2号	TEL(03)3640-6000	FAX (03)3640-9000
大阪営業部	〒555-0033	大阪市西淀川区姫島3丁目1番47号	TEL(06)6473-1650	FAX (06)6473-1000
札幌営業所	〒003-0011	札幌市白石区中央一条4丁目3番48号	TEL(011)812-2761	FAX (011)812-9304
仙台営業所	〒983-0044	仙台市宮城野区宮千代2丁目3番11号渡正ビル201号室	TEL(022)349-8677	FAX (022)283-3255
西関東営業所	〒252-0131	神奈川県相模原市緑区西橋本1丁目15番16号	TEL(042)700-3111	FAX (042)700-3112
名古屋営業所	〒454-0059	名古屋市中川区福川町1丁目1番地	TEL(052)351-6500	FAX (052)361-7433
岡山営業所	〒701-1134	岡山市北区三和1000番34	TEL(086)294-1201	FAX (086)294-6966
福岡営業所	〒811-0119	福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3丁目2番1号	TEL(092)962-0661	FAX (092)963-1241

ロックペイントのインターネットホームページ <https://www.rockpaint.co.jp>

- 本カタログの内容については、予告無しに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。
- また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

販売店：